

## 東京バッハ合唱団第 89 回定期演奏会「祝典のバッハ」

2001 年 5 月 12 日 (土) 午後 6 時開演 石橋メモリアルホール

坂本 尚史 (岡山ポリフォニーアンサンブル)

この日、ちょうど都合の良いことに会議のための出張があり、会議を早々に切り上げて念願の東京バッハ合唱団の定期演奏会を聴くことが出来た。ポジティブ・オルガンを譲っていただいたことをきっかけとして、一昨年秋に私どもの岡山ポリフォニーアンサンブルの演奏会に大村先生にお越しいただいた。それ以来、いつかは大村先生の東京バッハ合唱団の演奏を聴かせていただくことを願っていたが、やっと実現することが出来た。

演奏を聴く前から楽しみにしていたのは、大村先生の音楽作りと、日本語によるバッハだった。大村先生と東京バッハ合唱団の演奏は、以前にいただいたヨハネ受難曲のビデオでは拝見していたが、実際の演奏を聴かせていただくのは初めてであった。第 1 曲目が始まると、大村先生のゆったりとした柔らかな指揮と、それに良く反応する合唱団、さらには柔らかな、それでいて芯の通った管弦楽から繰り出される、しっとりとした慈愛に満ちた音楽に魅了された。39 年間、89 回の演奏会を重ねた先生と合唱団の歴史と伝統の響きを感じられた。男声も、人数の少なさを感じさせないしっかりとしたものであった。

ソリストは、全員が素晴らしい声と歌唱力の持ち主であった。テノールの佐々木正利先生は岡山バッハカンタータ協会でご指導をいただき、日頃から素晴らしい歌唱とご指導力に感銘を受けている。また、アルトの佐々木まり子先生には何度か演奏会で独唱をしていただいたことがある。今回も、両先生の素晴らしい歌を堪能することが出来た。ソプラノの光野孝子さんは、初めて聞かせていただいたが、透明感のあるのびのびとした歌唱であった。特に、51 番のカンタータは素晴らしいものであった。140 番は以前に演奏し、かつバスの独唱を歌った曲で懐かしく聞かせていただいたが、2 曲の重唱ともに美しいソプラノと安定感のあるバスの好演奏であった。もう一つ期待していた日本語によるカンタータは、歌手にとっては曲の内容が理解しやすく、音楽表現に価値が高い試みであることは十分に認められるが、残念ながら、合唱において言葉が明確には聞き取れなかった。音楽の流れと言葉のアクセントが一

致しないところが残されており、そのようなところで、特に歌詞が良く聞き取れなかった。カンタータの日本語訳は大村先生のライフワークとされ、非常な情熱を傾けておられるお仕事である。このことは、決して大村先生のご努力を過小評価するものではなく、カンタータの演奏に取り組んでいる者の一人として、先生のお仕事さらに発展されることを期待している。原語と日本語のアクセントや言葉のニュアンスの違いというのは訳詞の宿命でやむを得ないところではあるが、今後とも先生のご努力により歌いやすい訳詞が出版されることを心より願っている。

今回の演奏会は、合唱団員の生き生きとした顔が印象的であった。皆様が先生のご指導のもとに、バッハの音楽に真摯にかつ楽しく取り組まれていることが伺われる演奏会であった。私も今秋の演奏会に向けて、心を新たに組み直さなければならないと感じつつ会場を後にした。

なお、打上げにもお誘いいただいたが、たまたま体調を悪くしたため失礼したことをお詫び申し上げます。

### バッハカンタータ 50 曲選 出版ニュース No.10

第 2 期全巻が出版されました

去る 5 月 12 日の定期演奏会当日に、第 2 期の残り 5 曲が発売されました。ご予約済みの方には順次ご郵送いたしております。万が一、未着の方がいらっしゃいましたら、ご一報ください。至急お送りいたします。

これで、全 50 曲のうち 20 曲が揃いました。既刊の楽譜を用いた演奏会が、さっそくいくつか準備されているようです。原語演奏あり、日本語訳詞の演奏ありで、便利にお使いいただいています。

次回第 3 期の出版は、本年末から 2002 年の 5 月頃を予定しています。出版計画が継続できますよう、さらに多くの方々のお求めとご利用をお願いします。お問い合わせは、事務局まで。

## カンタータ 140 番との出会い

遠山 香苗 (団員)

東京バッハ合唱団に入団してちょうど1年。今回の演奏会が2度目の私ですが、カンタータ 140 番の愛好家 (!?) として、月報デビューとなりました。合唱団へ入団するまで、バッハといえばチェロの無伴奏組曲やヴァイオリンやオルガン曲などに親しんでいましたが、唯一カンタータで聴いていたのが140番でした。

フランスから帰ってきて、しばらく無気力で暮らしていたある日、大型レコード店の棚に整然と並ぶバッハコーナーを眺めていたとき、《目覚めよ!》というタイトルが目飛び込み、どんな曲だろうと思つて手にしたのが、この名曲との出会いです。140番の好きな理由は、うまく述べられないのですが、1枚のCDを手にしたとき、あのときの私を確実に目覚めさせてくれました。そして、私の絵を描く生活のリズムとか私の呼吸のようなものにピッタリきます。朝の寝起きでは文字通り《目覚めよ! KANAE》と目覚ましがわり。部屋を片づけるときには鼻歌となって、せつせと物をよけながら掃除機をかける。いよいよ制作の時間となれば、神聖な面持ちで耳を傾け、創作の世界へ私をいざなう。初舞台となった昨年12月の演奏会でも、感動はひとしおでしたが、早くも140番が歌えることができ、とても幸福感がみなぎるのです。

《あなたもいっしょにバッハを歌いませんか》というコピーに妙に魅かれて入団。我ながら勇気のいることでしたが、みなさんのお仲間に入れてもらえて、私は喜びをひとつ見つけたような気持ちでいます。今年の春から女子美大の附属中・高で教鞭を取ることになり、自由時間は激減してしまいましたが、自分の芸術生活を豊かにするために、歌えるアーティストを目指します。《私にとって、バッハは森です。》と誰かがいっていました。森を散策する気分でバッハの音楽空間を体験したいと思っています。

## 第89回定期演奏会アンケートより

- すばらしい演奏会でした。曲の順序もよかった。バッハはなんて豊かで美しいのでしょうか。胸が一杯になりました。
- よい季節に、このすばらしい演奏会に伺うことができ、幸せです。いつも感謝しています。今回さそって伺った友人もとても喜んでおりました。
- BWV 9 プログラムの第1曲から、美しい印象的なカンタータで、うっとりしました。
- BWV51 ソプラノの光野さんの歌いきったカンター

タ第51番。感激!!

- BWV140 合唱が出色でした。また、テノールソロには引きこまれました。
- 全体に、ヴァイオリンソロの坂田さんがすばらしく、エネルギーを感じさせてくれた。
- テンポ、出だしが全般にきびきびして良かった。
- 2007年までのプログラムがもう決まっている—これはすごい人たちの集まりだと思いました。なんと優しく力強く、そしてすてきな一時だったことか! ありがとうございます。次回、今から楽しみです。

## ミニ・バザーにご協力をお願いします

毎回きびしい演奏会の会計を補填するため、合唱団ではイベントのある機会に、ミニ・バザーを開いています。

7月2日の創立記念懇親会にも、会の前後と休憩中に、持ちよりの物品を展示即売することにいたしますので、

◎6月末日までに 合唱団事務局にご送付

◎7月2日当日 会場に直接ご持参

いずれかの方法で、皆様からご協力いただければ幸いです。

## 東京バッハ合唱団創立39周年記念

### 懇親会&シンポジウム

(再報)

- ◆日時 2001年7月2日(月) 18:30-20:30
  - ◆会場 目白聖公会 (JR山手線・目白駅下車5分)
  - ◆会費 1000円
- 【郵便振込みで予約、または直接申し込み】

シンポジウム<心・くらし・歌>

### ◆発題者

務台孝尚 (後援会員、曹洞宗・宗福寺住職)

丸山真人 (後援会員、東京大学教授・経済人類学)

司会 大村恵美子

務台氏は、1956年長野県の曹洞宗・宗福寺に生まれ、駒澤大学大学院などで道元禅師の思想を学ばれた後、現在はご実家の寺を継いでいらっしゃいます。バッハ合唱団でもかつてマタイ受難曲などを一緒にお歌いになりました。曹洞宗の梅花流詠讃歌を実践しておられます。

丸山氏は、1954年三重県松阪市生まれ。東京大学

大学院時代から「広義の経済学」に関心を深め、留学後、明治学院専任講師などを経て現職。経済人類学やジェンダー論など最先端の分野で、海外のさまざまな研究を日本に紹介し、研究をつづけていらっしゃいます。

このお2人から、“心と口と行為と暮らし”(Herz und Mund und Tat und Leben BWV147) について、あらためて現代的な把握を伺うことができることと存じます。

◆参加者全員の方々に、1992年発行の『東京バッハ合唱団一三十年の歴史』(大村恵美子編著)を1冊ずつお持ち帰りいただきます。すでにお読みの方が多いと思いますが、PR用としてもご利用いただきたいのです。来年は創立40周年を迎え、新しい記念誌の編集が団員の手によって現在進められています。

◆発題者を囲んでの会食

同日シンポジウムに引きつづき、20:40、目白「揚子江」、会費：4,000円(予約とともに前納、締切り6月30日)

シンポジウムについては、予約なしのご来場にも応じられますが、会食の当日参加は、準備の都合上ご容赦いただきます。

◆ご参加申込みは、郵便振替用紙にご記入の上、郵便局でお振込みいただくか、直接事務局へお申し込みください。

後援会 会計報告 (2001年1月～3月)

(単位・円)

収入	242,000
内訳 後援会費	192,000
寄付	50,000
支出	500,543
内訳 事務局費補助	210,000
渉外費	35,000
通信費	89,729
事務費	165,714
雑費	0
差引	△258,443
前期より	200,884
累計	△57,559

【継続会員】

森 彬、森永毅彦、青木道彦、安藤真保、矢沢 守、本田節子、小久保基子、大滝政昭、郡司信之、佐川行子、清田礼子、佐川治子

【新入会員】

高田小夜子、加藤道子

【寄付】

三ツ木篤子、清田礼子、佐藤順子

【切手多数】

三和ふじ江、原田知子、長井しのぶ、山崎千秀子、多田逸郎

第18回

ばっはめいと 夏の演奏会

2001年7月22日(日) 14:00-16:00

ヤマハミュージック

小田急線経堂駅南口前 ピーコック3階

(TEL03-3425-9311)

入場無料

(どなたでもご来場ください)

主催：ばっはめいと事務局

(東京バッハ合唱団内)

# 野尻湖・神山教会特別演奏会

2001年8月4日（土）19:00 開演

## プログラム

合唱 カンタータ第9番《救いは のぞめり》BWV 9

1) 合唱 5) ソプラノ・アルト二重唱 7) コラール

ヴァイオリン独奏 無伴奏ヴァイオリン・パルティータ 第2番 BWV1004

合唱 カンタータ第29番《み神に 謝しまつらん》BWV29

2) 合唱 8) コラール

合唱 カンタータ第140番《目覚めよと呼ばわる ものみの声高し》BWV140

1) 合唱 4) テノール斉唱 7) コラール

## 演奏者

ヴァイオリン＝小田幸子

ピアノ＝内山亜紀

合唱＝東京バッハ合唱団

指揮＝大村恵美子

## 入場無料

お申込み／お問合せ先：東京バッハ合唱団 〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101

Tel:03-3290-5731 Fax:03-3290-5732 E-mail:bachchor.tokyo@aol.com

---

東京バッハ合唱団は、8月2日（木）から5日（日）、長野県・野尻湖レイクサイドホテルで、3泊4日の合宿をおこない、4日（土）の午後7時に、対岸の神山教会で特別演奏会を開きます。

この合宿には、後援会員をはじめどなたでもご参加いただけます。参加または演奏会当日のみの宿泊をご希望の方は、あらかじめ合唱団事務局にお申し出くされれば、詳細をご案内します。

（宿泊先および神山教会のもより駅は、JR信越本線の「黒姫」駅または「妙高高原」駅です）